PAT-NO:

JP358048621A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58048621 A

TITLE:

INDUCTION HARDENING DEVICE

PUBN-DATE:

March 22, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME KOBAYASHI, SHIGEKI **UNO, KAZUO USHITANI, KENJI** TSUKIYAMA, JUNYA TOMINAGA, KATSUJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TOYOTA MOTOR CORP

N/A

APPL-NO: JP56145574

APPL-DATE: September 17, 1981

INT-CL (IPC): C21D001/62

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a high frequency device which facilitates setting and exchanging of positions of a hardening coil by providing a hardening machine and a mechanical connecting part which regulates the mounting position to the hardening coil, and inserting the regulating body of the hardening coil into the socket part of the hardening machine.

CONSTITUTION: A hardening coil 3 is slided by means of the guiding rails 10, 11 of a hardening machine 2 to insert the connecting plug 32 for conduction of electricity of the coil 3 freely into the connecting terminal 5 for conduction of electricity of the machine 2 and to insert a locking arm 31 into the clamping arm 22 of the machine 2. An eccentric cam 21 provided to the shaft of the machine 2 is moved upward by the arm 22 to regulate the lateral rotation of the coil 3. Thereafter the regulating body 29 of the coil 3 is fitted into the socket and spigot parts 12, 13 of brackets 14, 15 to regulate the vertical and lat ral rotati ns of the coil 3. In succession, a shaft 18

is r tated to grasp th terminal 5 thereby press sticking the plug 33.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

(9) 日本国特許庁 (JP)

- ⑪特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭58-48621

⑤Int. Cl.³C 21 D 1/62

識別記号

庁内整理番号 7920—4K **43公開 昭和58年(1983)3月22日**

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

9高周波焼入装置

②特

顧 昭56—145574

②出 願 昭56(1981)9月17日

仍発 明 者 小林茂樹

豊田市トヨタ町530番地

の発 明 者 宇野和夫

名古屋市昭和区槽渓通5-34-

Z

· ⑦発 明 者 牛谷憲二

豊田市丸山町 4 — 3 —38

@発 明 者 月山純也

豊田市四郷町山畑92番地

@発 明 者 富永勝次

費田市千足町比丘尻953番地36

⑪出 願 人 トヨタ自動車株式会社

豊田市トヨタ町1番地

個代 理 人 弁理士 富田幸春

明 細 書

1. 発明の名称 髙周波焼入装置

2.特許請求の範囲

トランスに接続する焼入機と酸焼入機に着脱可能にされている焼入コイルとより組み合わされて成る高周波焼入装置において、酸焼入機に通電接続ターミナルを中心に有して対向立即を有するプラケントとが対向して1対併設されているとするシャフトが酸偏心カムを有するシャフトが酸偏心カムにクランパスコイルが上記プラケットとに係りって上記であると変換のでした。 規制体と通電接続プラグとロックアームとを特徴とする高周波焼入装置。

3.発明の詳細な説明

開示技術は焼入コイル装着による芯出し精度を 向上させる技術の分野に属する。

而して、この発明は、例えば、自動車の等速ショイントの一部を成すジョイントハウジングのア

ウタレースを焼入する焼入する焼入すの焼入する焼入すのである高周波焼入枝に関するものであり、特に、酸焼入食に設けられた、酸ケーミナルの両側に対対対した。酸ケーミナルの一点である。、サールと、サールとは、サールとは、サールとが、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点では、大口の一点である。

周知の如く、各種工業製品の表面焼入れとして 高周波焼入れが広く一般に採用され、そのうち、 内面焼入れも極めて多い。

特に、該内面饒入れは饒入コイルと被撓入面で ある内周面との距離を常に均等に保ち均一な焼入 れをする必要があり、そのため、該焼入コイルの 位置セツテイングの正確さが要求される。

さりながら、従来上記焼入コイルの誘導子と上 記高周波焼入れの焼入機に設けられた取付部との 距離が長く、放誘導子の該取付部に対する寸法精 度が出し難いという難点があつた。

加えて、上配焼入コイルはその通電接続プラグをして上配焼入機と固定されているので、該焼入コイルの取付姿勢は不安定で、その点でも被処理面に対しての適正セツテイングは熟練を要すという不都合さがあつた。

又、そのため焼入れ作業性が悪く、品質の安定 にも影響を与えるという不利点があつた。

更に、上述の如く上記焼入コイルは不安定姿勢 で固定されるので、該焼入コイルの交換に際して は取付位置を確認しながら慎重に成さねばならず 優めて作業が煩瑣であり、能率が悪いという欠点 があつた。

この発明の目的は上述従来技術に基づく高周波 焼入装置の被処理物に対する位置セツテイングの 間題点に鑑み、焼入コイルの誘導子を焼入機倒に 近接させ、更に、該焼入コイルと該焼入機とに取 付位置を規制する機械的な連結部を設けることに より上述問題点を解決し、交換が容易で取付位置 のセツテイングが簡単に成され、而も、確実で常 に正確に固定される様な焼入コイルを有する優れ た高周波焼入装置を提供せんとするものである。

上述目的に沿うとの発明の構成は、焼入コイルのロックアームを焼入機のクランプアームに嵌合させ、次いで、酸クランプアームに設けられた偏心カムをして酸焼入コイルの規制体を上配焼入カイルの上下、左右を正確に固定する様にし、一方、その間酸焼入コイルの通電接続プラグが上配焼入機の通電接続ターミナルに装着される様にしたことを要旨とするものである。

次にこの発明の実施例を図面に基づいて説明すれば以下の通りである。

1 は高周波焼入装置でこの発明の要旨を成すものであり、焼入機2と焼入コイル3との組み合わ

せから成つている。

まず眩焼入機2について詳述すると、第1図に示す様にトランス4と接続された通電接続ターミナル5が軸方向スリット6を有して該トランス3の側面7から臨まされており、該側面7に該ターミナル5を中心として左右に対向立設されたサイドフレーム8、9がそれぞれの下端にガイドレール10、11を対設すると共に、その上部に円弧状インロ部12、13を有するプラケット14、15が該ガイドレール10、11と対向し、一方の該プラケット15に凹部16が穿設されて併設されている。

而して、一端にハンドル17を有するシャフト 18が上記ターミナル5と一方が右螺子、他方が 左螺子螺合されて直交され、それと共に両端が上 記サイドフレーム8,9に枢支されて、上記ター ミナル4の狭窄拡大が可能にされている。

一方、上記プラケット14,15の上方には同じく一端にハンドル19を有する他のシャフト20 に中途に偏心カム21を有し、両端が上記両サイ ドフレーム 8 , 9 に枢支されており、又、該係心 カム 2 1 には T 型クランプアーム 2 2 が該アーム 2 2 に設けられたリング 2 3 を介して遊挿されて いる。

次いで、前記焼入コイル3について説明すると、第2図に示す機に上面にフランジ24を有する絶 級スリープ25の周側面26にケイ索鋼板27, 27…を積層した誘導子28,28…が付設され ている。

又、上記フランジ24には前記インロ部12・13 と係合可能な規制体としての円板プレート29が設けられており、該円板プレート29には対向する1対のエルポ30,30が立設されて成るロックアーム31と、上記誘導子28,28…と導通された通電接続プラグ32が軸方向スリット33を有して前記通電接続ターミナル5に挿通可能にされて立設され、更に、凸部34が前記凹部16と嵌合可能にされて突設されている。

上述構成に於いて、焼入コイル3をそのフランシ24をして焼入機2のガイドレール10,11

特開昭58- 48621(3)

に載置させてトランス 4 方向にスライドさせると、 該焼入コイル 3 の通電接続プラグ 3 2 が上記焼入 機2の通電接続ターミナル5に遊挿され、ロツク アーム31の両側エルポ30,30間が舷焼入機 2のT型クランプアーム22に挿通される。

次いで、該焼入機2のジャフト20をそのハン ドル19により回転させると眩シャフト20の傷 心カム21が上記焼入コイル3を上記T型クラン プアーム22を介して上方移動させ、 欧焼入コイ ル3の凸部34が上記焼入機2のプラケツト15 に穿設された凹部16に嵌挿されて眩焼入コイル 3の左右回転が規制され、その後、円板プレート 29が該プラケツト15と他のプラケツト14と のインロ部13,12と嵌合し、該円板プレート 29の表面が該インロ部13,12の内面に挿圧 当接され、その結果、上記焼入コイル3の上下、 左右が規制される。

続いて、上記通電接続ターミナル5に直交され たシャフト18をそのハンドル17により回転さ せると、眩ターミナル5は眩シヤフト18との左・

上述の如く、この発明によれば、焼入機と眩焼 入機に滑脱可能にされた焼入コイルとが組み合わ されて成る高周波焼入装置に於いて、該焼入機が 該焼入コイルに設けられた通電接続プラグと規制 体とロツクアームとにそれぞれ係合可能な通電接 統ターミナルとプラケツトとクランプアームとを 併設していることにより、電気的接続は上記プラ グと該ターミナルとにより成され、機械的連結は 上記規制体と上記ロツクアームとが上記プラケツ トと上記クランプアームとにそれぞれ掛止される 様にされているので、電気的、機械的な機能分離 が成され、従つて、上記焼入コイルは上記焼入機 に対し固定が確実であり、通電性も充分保証され るという優れた効果が奏される。

又、上記焼入コイルのプラグ、規制体、ロツク アームは誘導子を付設する絶縁スリープに併設さ れていることにより、結果的に、眩誘導子と上記 焼入機の連結部位との寸法精度が極めて良く、そ のため、被焼入面に対する上記焼入機の位置セツ テイングが容易であるという優れた効果が奏され 右螺子螺合にて狭窄され内部の上記通電接続プラ グ33が圧着される。

従つて、上配焼入コイル3は設定位置に確実に 固定され、通電接続も充分に保証される。

との様にセツトされた状態の上記焼入コイル 3 はその位置が図示しないワークセツト治具に軟置 された周知の等速ジョイントハウジングに対し、 該饒入コイル3の誘導子28,28…と眩ハウジ ングのアウタレースとの均等間隔が精度良く成さ

実験によれば、上記焼入コイル3の取付所要時 間は従来の工具使用による取付時間に比し10分 の1に短縮出来、又、上記該導子28と上記アウ タレースとのコイルギヤツプ精度は土 0.1 以下で あつた。

尚、この発明の実施態様は上述実施例に限るも のでないことは勿論であり、例えば、円板プレー トを多角形としそれに対応するインロ部を形成さ せて焼入コイルの左右回転を規制しても良い等種 種の態様が採用可能である。

更に、上記焼入コイルは上記焼入機に対し機械 的連結手段を介して位置規制され、一方、被焼入 面に対してのセツティングが容易であるので、特 別な取付工具が不要となり、装着に要する時間も 短縮されるという優れた効果が奏される。

4.図面の簡単な説明

図面はこの発明の1実施例を示すものであり、 第1図は焼入機の斜視説明図、第2図は焼入コイ ルの斜視説明図、第3図は実施例の部分断面正面 説明図、第4図は第3図のIV-IV断面説明図、第 5 図は第3図のVーV断面説明図である。

4…トランス、

2 … 烧入 偿、

3…焼入コイル、

1 …高周放烧入装置、

5 …通電接続ターミナル、 8,9 …サイドフレーム、

10,11…ガイドレール、 12,13…インロ部、

14.15 … プラケツト、 21 … 偏心カム、

20…シャフト、

22…クランプアーム、

29…規制体、

32…通電接続プラグ、

31…ロツクアーム

